

クッション・マム、ダリア(実生)の生育、開花反応について

畑 井 昭一郎*・工 藤 洋 一*

1 ま え が き

キク(クッション・マム)、ダリアは花壇用草花および実生による鉢物用として多く用いられるようになった。キクは切花用としても鉢物用としても花持ち、利用範囲が広いことなどからその商品価値が高く、よく普及している。そして、キクは花きのなかでもその開花特性について最もよく研究されている種類の一つである。しかし、近年、実生による花壇用草花として、また、鉢物用としてよく利用されるようになったクッション・マムについてはその生育、開花反応が明らかでない。また、ダリアにおいても球根からの植物体を利用した日長に関するもの、また休眠や花芽分化に関するものについてはすでに研究されている。しかし、キクと同様に実生による生育、開花反応は明らかでない。今回はこれらの品種を幾つかとりあげて、は種期を変え、生育・開花状況とあわせて日長を変えて生育・開花反応を検討した。

2 試 験 方 法

試験 I

(1) 種類および品種

(ア) クッション・マム：ゴールデン・グローリー
ジュエル・グローリー

(イ) ダリア：ボーダー・ジュエル、エキジビション

(2) は 種 期 4月11日, 5月1日, 5月21日, 6月11日

(3) 区 制 1区制, 1区50株

(4) 栽植様式 25cm×25cm, 畦幅1m(三条植)

(5) 施肥量(10a当り) 堆肥2t, 重焼燐120kg, 苦土石灰200kg, N10kg, P₂O₅10kg, K₂O10kg

(6) 耕種概要 ハウス育苗, いずれの草花も本葉3~4枚で移植, 5~7枚で露地に定植

試験 II

(1) 種類および品種 試験 I に同じ

(2) 日 長 自然日長(11~15時間), 短日日長(8時間), 長日日長(16時間)

6月18日処理開始

(3) は 種 日 4月11日

(4) 区 制 1区制, 1区20鉢, 15cm鉢1本植

(5) 施 肥 大塚液肥(15-8-17)の500倍液を10日ごとに施肥

(6) 耕種概要 ハウス育苗, 本葉3~4枚期に10.5cmポリ鉢に鉢上げ, 本葉5~7枚期に15cm素焼鉢に鉢上げ

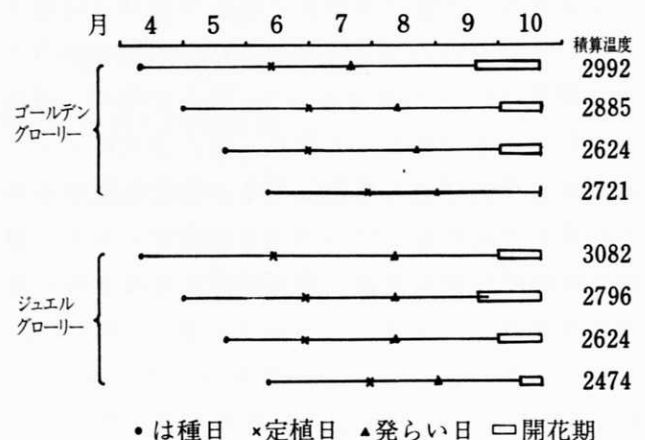
3 試験結果と考察

試験 I

は種期別による発らいおよび開花期は第1図(クッション・マム), 第2図(ダリア)に示した。クッション・マムにおいては、は種から開花までの日数は約145日と比較的長かった。両品種とも日長に関係なく発らいした。

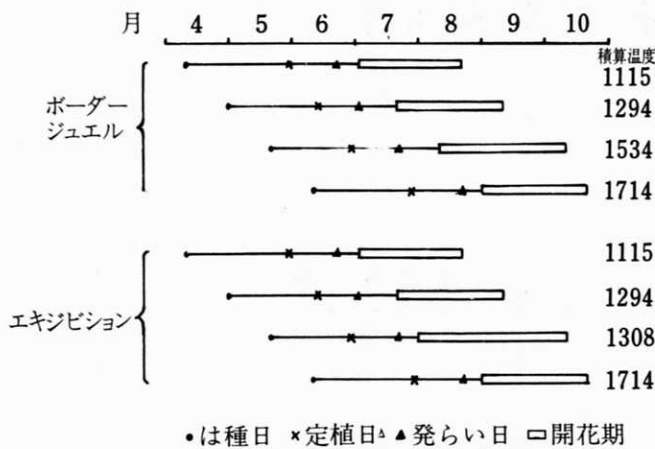
4月11日~5月21日は種では開花が9月21日~10月1日に見られた。しかし、6月11日は種では植物体が小さいうちに開花(10月11日~10月21日)してしまった。開花は秋の短日に感応したと考えられる。参考的に積算温度を調べたところ、両品種とも2,500~3,000℃であった。

ダリアにおいては到花日数が約80日で、は種期が早くても遅くても差はほとんどなかった。4月11日は種では生育、開花とも若干悪く、5月21日は種で最もよかった。品種間では生育、開花とも大きな差はなかつた。



第1図 クッション・マムのは種期と開花期の模式図

* Shoichiro HATAI, Yoichi KUDO (青森県畑作園芸試験場)



第2図 ダリアのは種期と開花期の模式図

た。ダリアの日長に対する開花反応についての報告は研究者によってまちまちであり、また品種によっても違うようである。この試験結果からも一定の傾向は見られなかった。積算温度は両品種とも1,100～1,700℃であった。

以上の結果から、寒冷地の花壇用としてはクッション・マムでは4月11日～5月21日、ダリアでは4月11日～6月11日がは種適期と考えられる。また、クッション・マムでは9月下旬、10月上旬に開花しはじめるから秋の短日によって開花し、一方、ダリアはある一定の生長期間を経過すると開花すると考えられる。

試験Ⅱ

クッション・マムの開花に対する日長の影響を第1表に、ダリアの開花に対する日長の影響を第2表に示した。

クッション・マムでは草丈は短日区よりも長日区で高くなり、葉数も長日区で多かった。しかし、その差はあまり顕著でなかった。発らいは各日長に見られ、発らい株は長日区で少なく、短日区で多い傾向が見られた。しかし、開花は短日区で100%であったが長日区では全く開花しなかった。品種間では差がなかった。これらのことから、クッション・マムは発らいについての反応は明らかでなかったが16時間の長日では開花しないが15時間以下の日長では開花するので短日植物であり、岡田(1957)の生態的分類に従えば温度反応は明らかでないが、花芽分化の日長反応は中性で花蕾の発達は短日であるので、9月咲ギクの品種群に入ると考えられる。

ダリアでは草丈が長日区よりも短日区で短く、節数も少なかった。これは他の研究報告と一致した。試験Ⅰは圃場試験で試験Ⅱは中鉢試験のため若干の差が見られた。

開花についてはほとんど差がなく、開花数についても短日区よりも長日区でやや多い傾向が見られたが明確でなかった。

第1表 クッション・マムの開花に対する日長の影響

品種名	処理区	項目	草丈 (cm)	葉数	発らい株率 (%)	発らい数	開花株率 (%)	開花数	開花開始日
ゴールデングローリー	自然区		33.0	25.8	100	10.8	90	31.5	9月29日
	短日区		23.6	23.2	100	7.3	100	17.8	9月19日
	長日区		30.7	24.8	30	2.9	0	0	
ジュエルグローリー	自然区		21.9	18.0	100	6.4	100	30.5	9月29日
	短日区		19.1	20.1	90	8.9	100	12.9	9月9日
	長日区		33.4	23.5	80	20.0	0	0	

10月20日試験打切時調査(葉数は9月9日調査)

第2表 ダリアの開花に対する日長の影響

品種名	処理区	項目	草丈 (cm)	節数	発らい株率 (%)	発らい数	開花株率 (%)	開花数	開花開始日
ボーダー・ジュエル	自然区		21.7	6.9	100	2.6	40	0.3	7月9日
	短日区		15.8	6.9	100	2.1	60	0.2	6月29日
	長日区		27.9	7.2	100	2.5	70	0.4	6月29日
エキジビション	自然区		18.6	7.1	100	2.4	30	0.3	7月9日
	短日区		14.2	6.7	100	1.5	50	0.5	7月9日
	長日区		28.3	7.3	100	2.4	60	0.6	7月9日

7月9日調査